京都市教育長賞

認め、助け、高める

京都市立山階南小学校　六年　中島　和花

私の父は、よくテレビでニュース番組を見ている。父につられて、私もニュース番組を見ていると、よく出てくるのは犯罪のことだ。犯罪を犯した人はもちろん逮捕されるし、逃げたとしたら、見つかるまで捜索されることになる。多額の罰金を払ったり、刑務所に入れられたりすることもある。ここで、私には疑問が生じた。「犯罪を犯す人は、なぜここまでもして犯罪を犯すのか。」という疑問だ。

私は、薬物犯罪について考えた。大麻などの薬物を使用すると一時的に頭がさえ、体がすっきりした状態になるらしい。でも、こういった薬物を利用すると、心身の健康に害があるということも分かった。私には、「なぜ、心身に良くない影響があるのに、『薬物を使いたい。』と思う人が現れるのか。」という新しい疑問が生まれた。

薬物のことをしらない人が、友達に、

「私、この薬物使ってるんだ。頭がさえて、すっきりするから、勉強にも集中できるんだよ。○○もやってみなよ。」

と言われたとする。頭がさえて、すっきりする。勉強にも集中できる。こう言われたら、きっと少しは薬物のことが気になると思う。しかも、友達が言っている。「私もやってみようかな。『やってみなよ。』って誘われているんだし、断ったら悪いかな。」と思うかもしれない。

ここで、三つの道が分かれる。一つの道は、誘惑に負けて、「一回試しにやってみよう。自分に合わなかったらやめることができるし。」と思って薬物を使い始めてしまう道。もう一つの道は、薬物のことを調べて、不安だったら、親や信頼できる人に相談してみて、「犯罪につながってしまうからやめよう。」と思い薬物を使い始めるのをやめる道。最後の道は、薬物を使い始めることはやめるし、友達にも、「やめたほうがいいよ。」と進める道。私は、薬物を勧められたなら誰もが、最後の道に進んでほしいと思う。「ちょっとならいいかな。」「試してみようかな。」「断ったら悪いかな。」などの考えは絶対にダメだ。

薬物犯罪だけでなく、全ての犯罪においてもこのことは通用すると思う。犯罪を犯してしまっている人は全員、先ほどの最初の道に進んでしまっている。

ここで考えてほしいことがある。一般的には、犯罪を犯した人は一生を台無しにしてそれで終わり、という考え方が多い。でも、私はそれは間違っていると思う。犯罪を犯すということは、もちろんよくないことだが、心から悔い改めて、「もう犯罪をしない。」と決心するなら、たとえ犯罪を犯したとしても、再スタートすることができると思う。

私の学年では、「認め愛」「助け愛」「高め愛」という言葉を大切にしている。お互いに「認め」「助け」「高める」。これには「愛」が関係しているという意味合いがある。これは、犯罪を犯してしまったけれど社会復帰した人とかかわるときにも通用すると思う。社会復帰した人を差別せずに「認め」、社会復帰した人が社会でやっていけるように「助け」、人格がより良くなっていくように、社会復帰した人を「高める」。これにはすべて「愛」が関係していると思う。私は、これから、犯罪を犯してしまったけれど社会復帰した人と関わる機会があるなら、「認め愛」「助け愛」「高め愛」のことを忘れずに関わろうと思う。

審査員からのメッセージ

日々発生する犯罪のニュースに触れ、罪を犯すと必ず処罰を受けることがわかっているのに、「なぜ、人は犯罪を起こすのか。」という疑問に出会われました。例えとして薬物と出会った際には、決して誘惑に負けない。親や信頼できる友人などに相談するなど、犯罪につながる甘い誘惑を断る方法を考えてくれました。ただ全ての人が断ることができるとは限りません。罪を犯してしまっても、立ち直る機会はあります。立ち直ろうとする機会を、周囲の人も受け入れることが大切で、誰もが立ち直れることが可能になる環境には、排除する考えではなく、「認め愛」「助け愛」「高め愛」の気持ちが必要だと訴えてくれています。この三つの「愛」があれば、罪を犯した人だけでなく全ての人が居心地よく、自らの目標に向かって進んでいけることができると思います。

京都市教育長賞

サポートの重要性

京都市立太秦中学校　一年　市野　佑樹

私は、犯罪について考えたときに、最初に気になったのが罪を犯す理由についてです。

先日、父からショッピングセンターでお菓子を盗んだ少年を捕まえたと聞いたときに私は、お金で買えばいいのにと考えたからです。

窃盗の理由を父に聞くと、「自分がその物を欲しかったり、お金がなくて生活が苦しい人が窃盗をするのではないか。」と言っていました。

私は、窃盗する理由をインターネットを使って検索してみました。法務省の犯罪白書には、少年の窃盗の理由について「利欲」が六十六・六パーセント、「遊び」が二十六・八パーセントで「困窮・生活苦」はわずか〇・七パーセントと記載されていました。

このことから、犯罪者は自己統制のできない人が多いのではないかと私は考えました。

犯罪をなくすためには、一人一人が自分の感情や行動をしっかりとコントロールできるようになると、社会から犯罪者がいなくなるのではないかと思いました。

そして、実際に犯罪者は自己統制のできない人が多いのか、どのような犯罪が起こっているのかを知るために裁判所へ行って調べてみました。

この夏休みを利用して私は父と刑事裁判を二回、民事裁判を二回傍聴しました。その中でも特に窃盗事件が印象に残りました。

法廷には椅子があり、傍聴席から見て左に検察官、右には弁護士がいました。

しばらくして、弁護士側の奥のドアから二人の警察官に挟まれて被告人が入ってきました。

私は「うわっ」と声が出そうなくらい衝撃を受けました。被告人には手錠がついており、手錠は縄で縛られていて、警察官が縄を引っ張って被告人を連れていたからです。

その光景はまるでリードのついた首輪をした犬のようでした。

裁判官が法廷に来ると全員が礼をして裁判が始まりました。その裁判の内容は、ギャンブルをしたいがために自分の働いている会社の工具を盗み、売るというものでした。

私はこの裁判を見てこう思いました。

被告人は「自分勝手」だと。

自分のお金でギャンブルをすることは悪いことではないけれど、人の物を奪ってすることはいけません。

その被告人は、本当に次は窃盗をせずにいられるのか疑念が残りました。

そこで裁判所から帰宅した私は、日本の再犯者率をインターネットを使って調べました。

法務省の令和六年版再犯防止推進白書によると、令和五年の再犯者率は四十七・〇パーセントと記載されていました。四十七・〇パーセントとは、約二人に一人がまた、犯罪を犯すということです。つまり、一度犯罪をすると再度犯罪をする確率が高いということです。

また、その再犯防止白書には、就労・住居の確保等を通じた自立支援のための取組が記載されていました。

再び犯罪をさせないことも重要であると考えた私は、裁判を傍聴したときのことを思い出しました。

その裁判では、被告人を雇おうとする人がいたり、社会復帰を手伝おうとする家族がいたのです。犯罪を減らすためには、再び犯罪を犯さないことが重要であり、被告人をサポートする人がいると知りました。

そのような人たちがいると知った私は、次の三点について今後気

をつけようと考えました。

それは、「困った人を助ける。」「正直になり嘘をつかない。」「相手の気持ちを考えられる人になる。」という事です。

もし、犯罪を犯してしまった人がいたら、その人を責め立てるのではなく、サポートすることが大切なので、私自身が普段から困った人を助けようと思いました。

次に、もし悪いことをしてしまった時は、嘘をつかず、すぐに謝ります。嘘をつくと信用してもらえず、誰も助けてくれなくなります。だから、正直になり嘘をつかないことが大切です。

最後に、相手の気持ちを考えられる人になるということです。窃盗であれば、盗む前に被害者側の悲しみや苦しみを考えられる人であれば、きっと犯罪を犯すことはありません。

このように一人一人が自分勝手ではなく、相手の気持ちを考えられるようになれば、犯罪のない明るい社会にできると考えました。

私の周りに自分勝手でルールを守れない人はいないか、困っている人はいないか、犯罪に関わる可能性がある人を見逃さず、犯罪の予兆を感じとったら、周りの人みんなでサポートするんだという強い気持ちやコミュニティを作るよう日々心掛けていきたいと思います。

審査員からのメッセージ

お菓子を盗んだ少年が捕まった話を父親から聞き、罪を犯してしまう理由は何であるのか。作者に素朴な疑問が芽生えました。「犯罪白書」にある少年の窃盗の理由を調べ、罪を犯してしまう人は、自己統制ができない人が多いのではないか等、探求心が深まりました。さらに、夏休みには父親とともに裁判を傍聴した経験から、再犯防止のためには、罪を犯した人をサポートすることが大切であることに気づかれます。このような貴重な学びから、「困った人を助ける」「正直になり、嘘をつかない」「相手の気持ちを考えられる人になる」と決意され、より良く生きるための指針となっていくと思います。また、その陰には伴走されている父親の存在があり、親子の絆の強さや家庭の温かさを感じさせていただきました。犯罪のない明るい社会を創るために、人と人が支え合うことが重要であることを伝えてくれた素晴らしい作文です。